

水産庁の藻場に関する施策の動向

令和8年1月30日

水産庁

国の計画・戦略

- ・水産基本計画（R4.3月閣議決定）
- ・漁港漁場整備長期計画（R4.3月閣議決定）

など

取組の支援

- ・水産基盤整備事業（公共事業）
- ・漁場生産力・水産多面的機能強化対策
⇒藻場保全に関する取組を重点支援

普及・横展開

- ・磯焼け対策全国協議会
- ・漁場生産力・水産多面的機能強化対策
シンポジウム

藻場保全・創造の考え方

- ・藻場・干潟ビジョン（R5.12月改訂）
- ・磯焼け対策ガイドライン（R3.3月改訂）

など

調査・研究

- ・海水温上昇に対応した藻場整備における検討

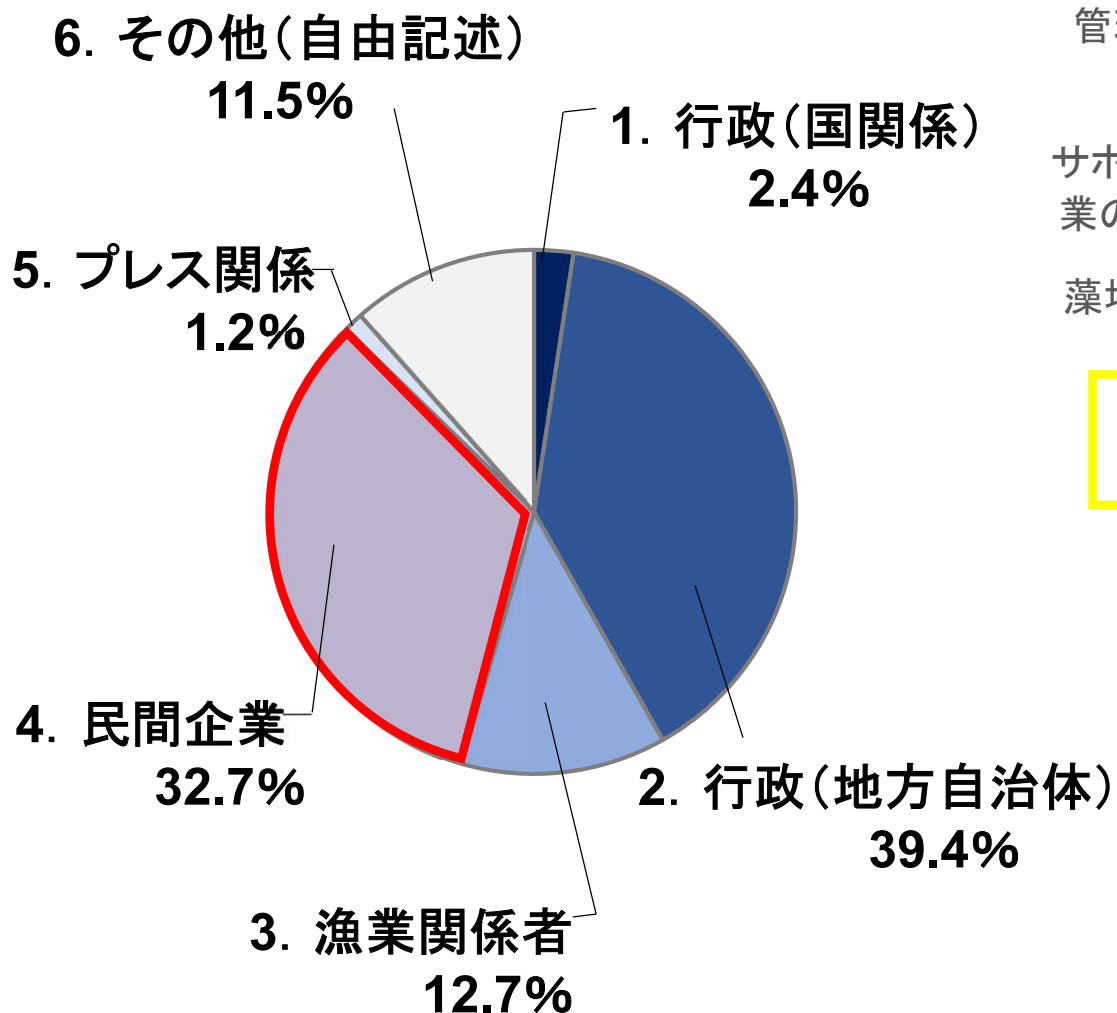
その他

- ・関係省庁との連携
→インベントリへの反映（環境省、国交省）
→グリーンイノベーション基金（経済産業省）
- ・民間企業との連携促進
- ・藻場保全 × 海業

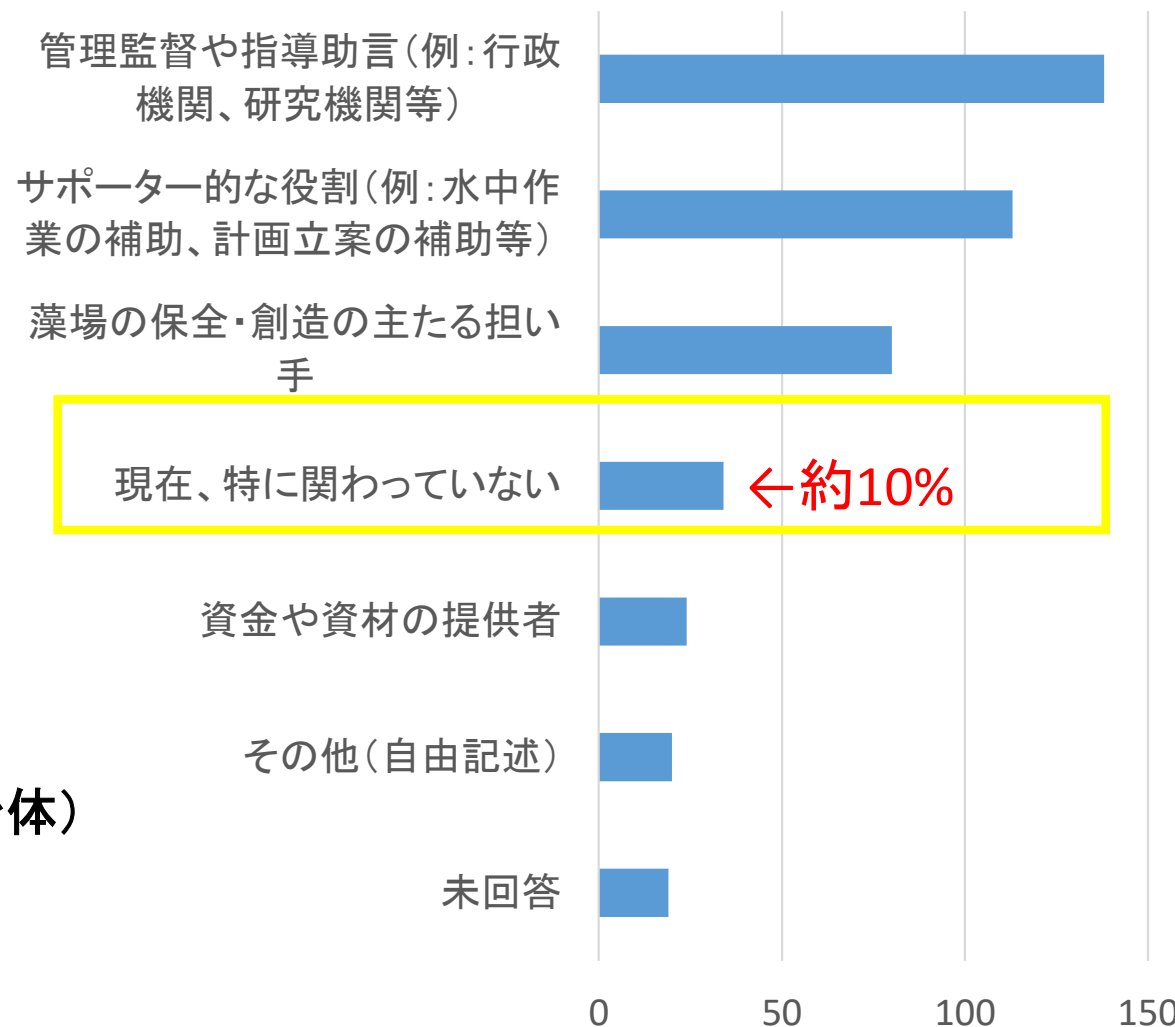
アンケート調査の概要

目的	次年度以降の磯焼け対策全国協議会の開催や水産庁の施策への活用のため、磯焼け対策全国協議会の参加者地域における藻場の状況や期待する技術開発等を把握する。
調査区域	全国
対象	磯焼け対策全国協議会参加登録者：330人
調査方法	オンラインでアンケートフォームに回答。
実施期間	令和7年12月～令和8年1月
有効回収数・回答率	磯焼け対策全国協議会参加登録者330人（1月5日時点で集計※） ※当日キャンセル者等を含む暫定結果となります

参加者の業種【一つ選択】



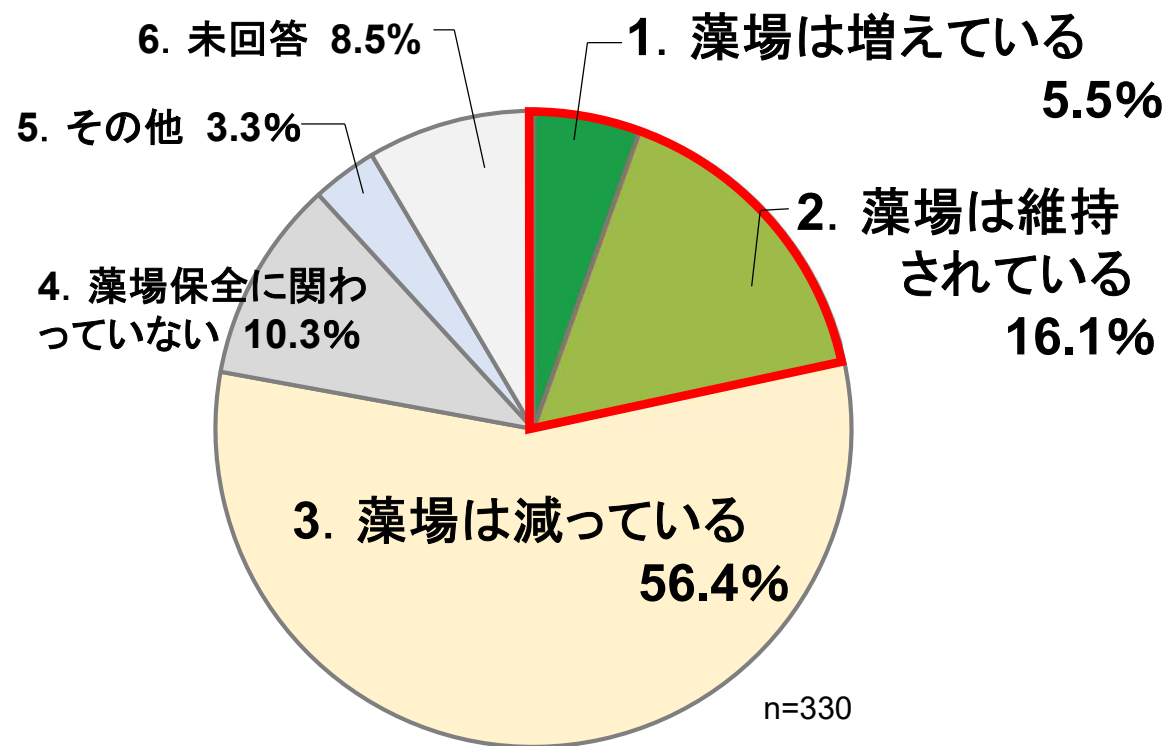
【問】現在どのような形で磯焼け対策や藻場の保全に関わっていますか？【複数選択可】



【問】藻場保全に関わっている地域において、5年前(2020年)頃と比較した**藻場の現状**について選んでください。

【一つ選択してください】

	総数	330	
1. 藻場は増えている	18	5.5%	
2. 藻場は維持されている	53	16.1%	
3. 藻場は減っている	186	56.4%	
4. 藻場保全に関わっていない	34	10.3%	
5. その他	11	3.3%	
6. 無回答	28	8.5%	



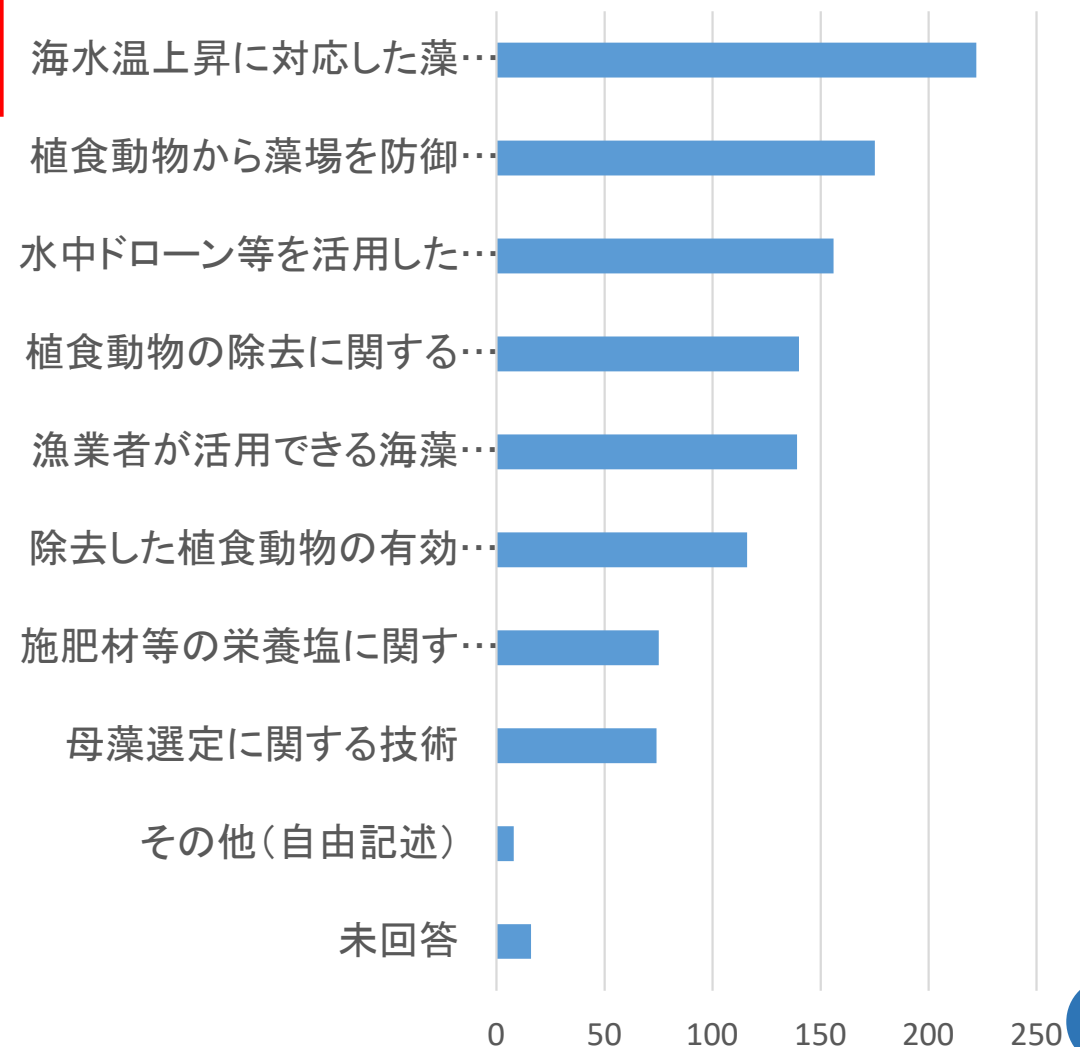
1/5 = 21.6%

1～3を100%として見た場合

1/3 = 27.6%

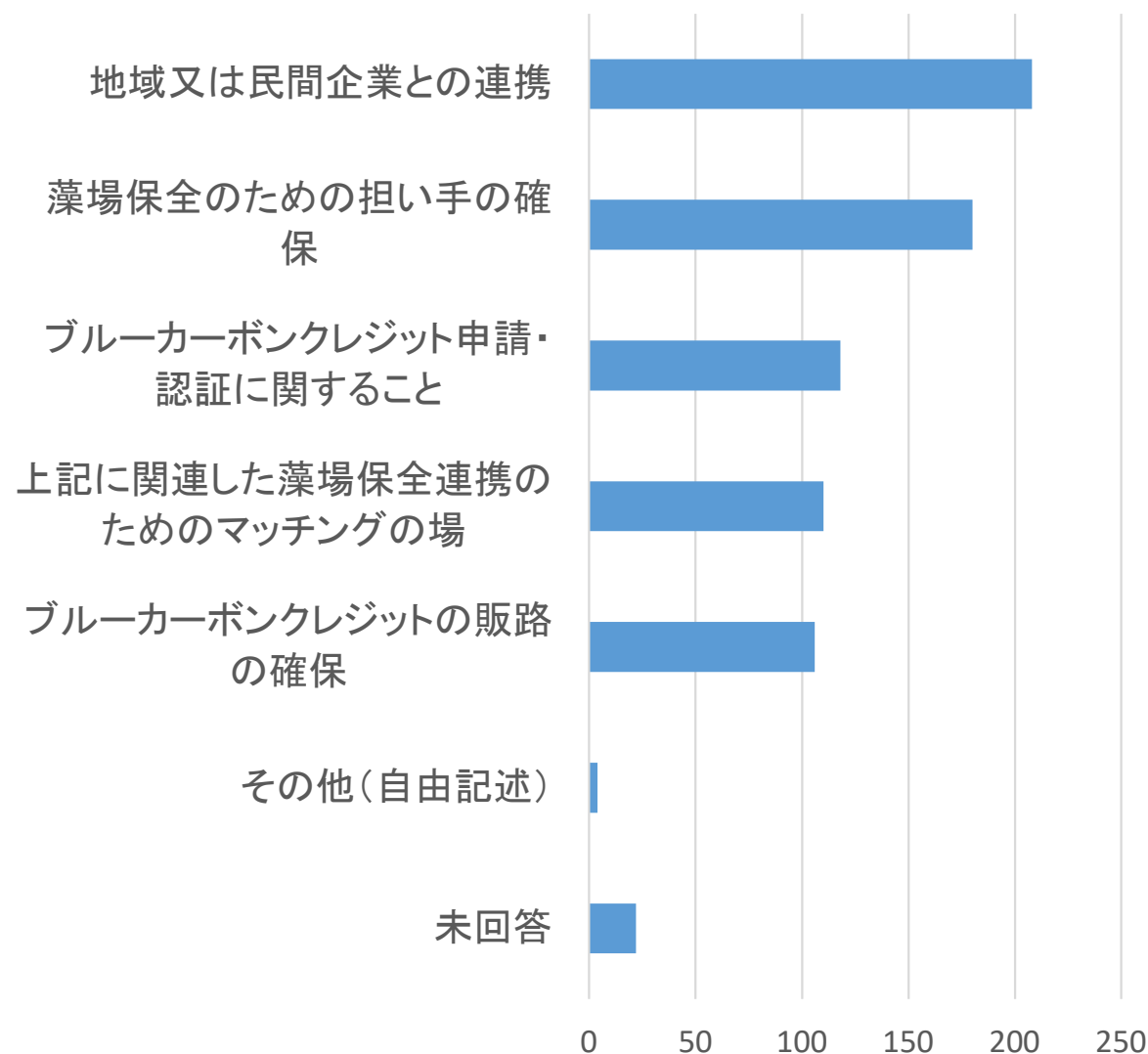
【問】磯焼け対策や藻場の保全等に関連して、今後期待する技術開発を教えてください。
【複数選択】

	回答数
海水温上昇に対応した藻場造成技術	222
植食動物から藻場を防御する技術	175
水中ドローン等を活用した効率的な藻場モニタリングに関する技術	156
植食動物の除去に関する技術	140
漁業者が活用できる海藻種苗生産に関する技術	139
除去した植食動物の有効活用に関する技術	116
施肥材等の栄養塩に関する技術	75
母藻選定に関する技術	74
その他（自由記述）	8
未回答	16



【問】磯焼け対策や藻場の保全等に関連して、**関心のある項目**を教えてください。
【複数選択】

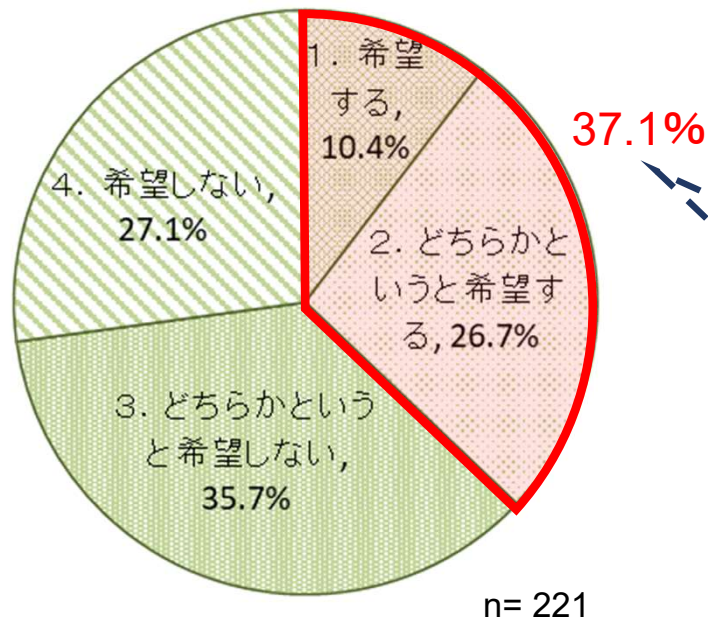
	回答数
地域又は民間企業との連携	208
藻場保全のための担い手の確保	180
ブルーカーボンのクレジットの申請・認証に関すること	118
上記に関連した藻場保全連携のためのマッチング	110
ブルーカーボンのクレジットの販路の確保	106
その他（自由記述）	4
未回答	22



※詳細はR6年度磯焼け対策全国協議会水産庁資料を参照

【問10-1】今後藻場保全活動を推進するにあたり、**民間企業との連携を希望**しますか。（1つに○）

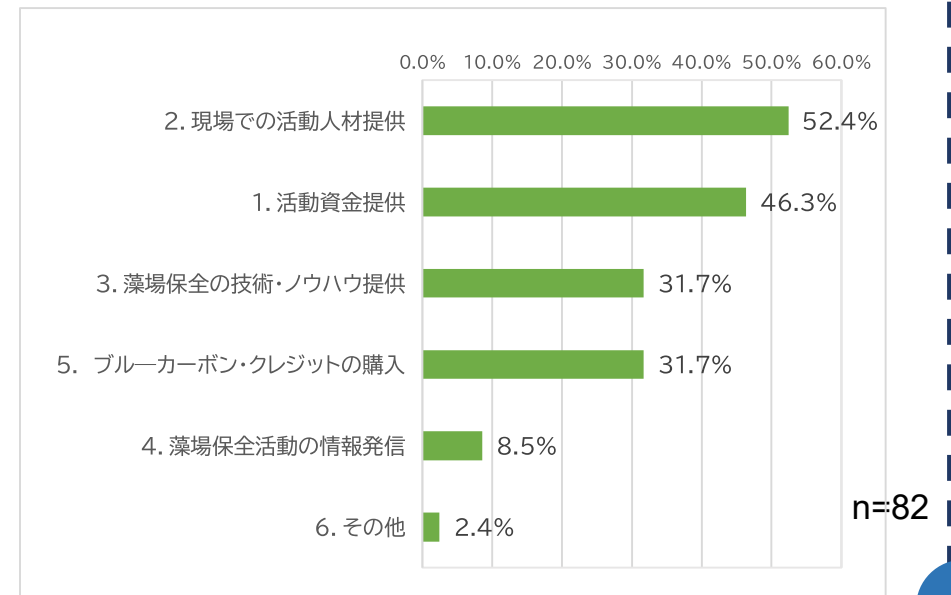
	総数	221	
1. 希望する	23	10.4%	
2. どちらかという并希望する	59	26.7%	
3. どちらかという并希望しない	79	35.7%	
4. 希望しない	60	27.1%	



【問10-2】（問10-1で1. 又は2. と答えた方へ）

藻場保全活動において**民間企業に期待すること**について教えてください。（すべてに○）

	総数	82	
2. 現場での活動人材提供	43	52.4%	
1. 活動資金提供	38	46.3%	
3. 藻場保全の技術・ノウハウ提供	26	31.7%	
5. ブルーカーボン・クレジットの購入	26	31.7%	
4. 藻場保全活動の情報発信	7	8.5%	
6. その他	2	2.4%	

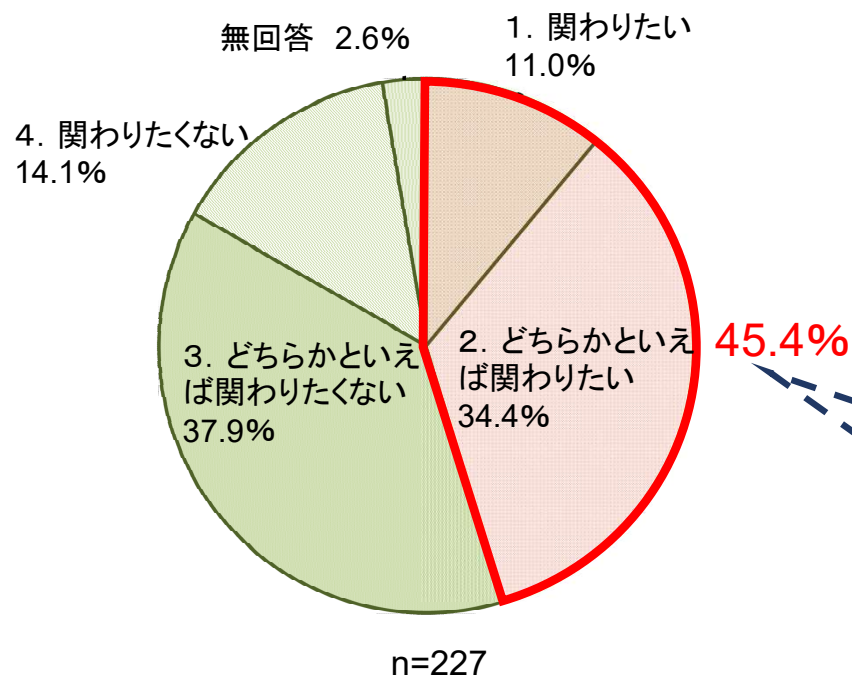


※詳細はR6年度磯焼け対策全国協議会水産庁資料を参照

【問6-1】（問4で2と答えた方へ）

貴社では藻場保全活動に今後関わりたいですか。（1つに○）

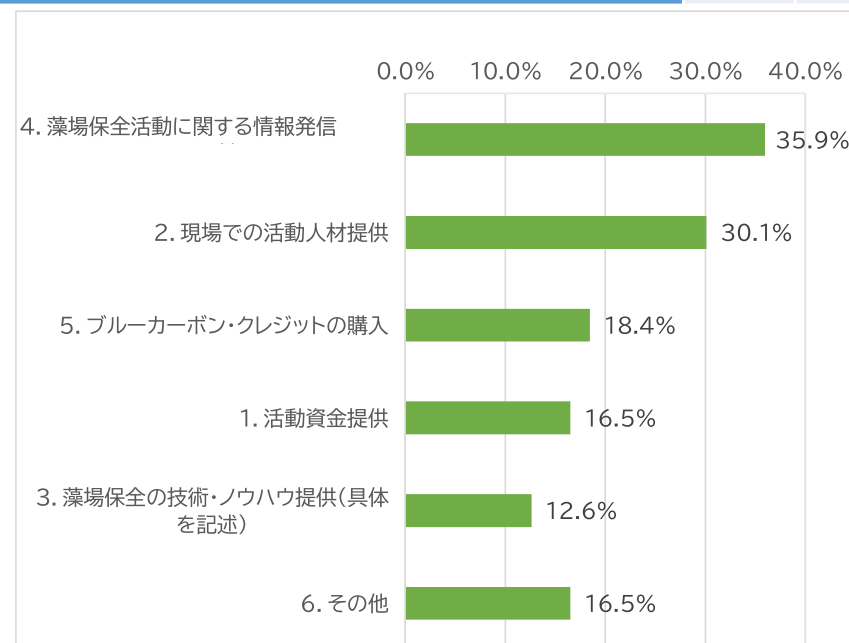
	総数	227	
1. 関わりたい		25	11.0%
2. どちらかといえば関わりたい		78	34.4%
3. どちらかといえば関わりたくない		86	37.9%
4. 関わりたくない		32	14.1%
無回答		6	2.6%



【問6-2】（問6-1で1又は2と答えた方へ）

貴社において今後希望する藻場保全活動への具体的ななかかわり方について教えてください。（すべてに○）

	総数	103	
4. 藻場保全活動に関する情報発信	37	35.9%	
2. 現場での活動人材提供	31	30.1%	
5. ブルーカーボン・クレジットの購入	19	18.4%	
1. 活動資金提供	17	16.5%	
3. 藻場保全の技術・ノウハウ提供(具体を記述)	13	12.6%	
6. その他	17	16.5%	



n=103

今後の藻場保全に向けて、

- ◆ 海水温上昇に対応した藻場造成技術

- R8年度にて調査継続

- 全国で活用可能にした手引き

- ◆ 地域等との連携

- 連携を可能にする具体的な仕組みづくり

令和8年度 気候変動下の藻場・干潟保全手法検討調査 概要

(目的)

- 海水温上昇に対応した藻場造成手法について、条件の異なる地域の海藻種による実証調査を加え、その成果を反映させることにより、当該手法の補足、充実を図り、全国での導入を促進することを目的とする。
- また、二枚貝や底生魚介類の生息場となる干潟について、GHG削減にも資する生産力改善手法の開発を目指し、基礎的知見の整理、将来性の検討を行う。加えて、検討成果は、「磯焼け対策全国協議会」を開催して、全国に共有、横展開することで普及を図る。

1. 気候変動下の藻場造成手法の検討

気候変動下の藻場造成手法の検討 (R8-9)

- 海水温上昇に対応した藻場造成(適切な種の選定、深い水深帯での藻場造成)の**実証試験を北海道沿岸、東北太平洋沿岸1海域で行う。**
 - ・モデル地区選定
 - ・海水温、光量、栄養塩等の整理・分析
 - ・母藻採取、設置、モニタリング
 - ・保全手法検討
- 実証調査手法を評価し、考慮すべき海域環境や代替手法の有無を検討するとともに、北日本における藻場保全手法に関する課題を整理。

アウトプット

- ・「海水温上昇等に対応した藻場造成手法(ガイドライン)」の補強・改善を行い、全国で活用できるようにする。

2. 干潟におけるGHG削減にも資する生産力改善手法の検討

①文献調査 (R8)

- 干潟におけるGHG排出削減又は吸収に関する文献を収集し、概要の整理。

②実現可能性評価

- 上記、文献調査に加え、有識者にヒアリングを行い、干潟におけるGHG削減の可能性、貢献度、将来性を評価する。

アウトプット

- ・①、②より、干潟におけるGHG排出削減、吸収の可能性を提示する。

3. 藻場・干潟の保全・創造に関する技術の横展開

「磯焼け対策全国協議会」を開催 (R8)

- 全国の地方公共団体や研究機関等に対して、当該年度までに把握・整理した藻場・干潟保全や磯焼け対策に資する成果を共有し、優良事例の横展開を図るため、「**磯焼け対策全国協議会**」を開催する。



アウトプット

- ・全国協議会を開催し、調査成果や優良事例を共有する。

漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業

令和8年度予算概算決定額 1,350百万円（前年度 1,366百万円）
〔令和7年度補正予算額 721百万円〕

<対策のポイント>

新たに気候変動・環境変化による藻場の減少等に対応するため、漁場生産力の回復・強化やブルーカーボンの推進の観点を踏まえ、漁業者等が行う藻場の保全活動を重点的に支援します。また、モニタリングの強化、専門家の指導等により活動の実効性を確保します。

<事業目標>

- 環境・生態系の維持・回復（対象水域での生物量を20%増加〔令和11年度まで〕）
- 藻場の保全対策を強化（藻場の保全面積 6,200ha〔令和11年度まで〕）

<事業の内容>

1. 漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業

漁業者等が行う、水産業・漁村の多面的機能の強化に資する以下の取組を支援します。

① 環境・生態系保全

漁場生産力の強化に資する藻場の保全活動（ウニ・食害魚等の駆除、海藻種苗の投入、藻場を保護する区域の設定）や干潟等の保全活動を重点的に支援します。併せて、モニタリングの強化、専門家の指導、PDCAサイクル等により活動の実効性を確保します。

② 海の安全確保

藻場等の海洋環境の変化を早期に捉えながら行う国境・水域の監視、海の監視ネットワーク強化、海難救助訓練等を支援します。

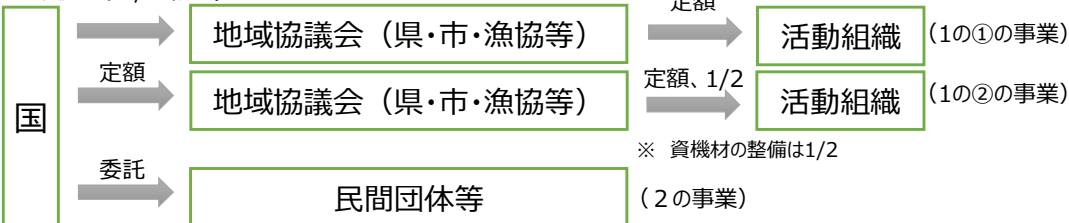
※ 上記①及び②に併せて実施する多面的機能の国民に対する理解の増進を図る活動組織を支援します。

2. 漁場生産力・水産多面的機能強化対策支援事業

漁業者等が行う環境・生態系保全の活動の評価・検証、技術的な課題に対する助言・指導及び効果的な活動の全国展開等に取り組みます。

<事業の流れ>

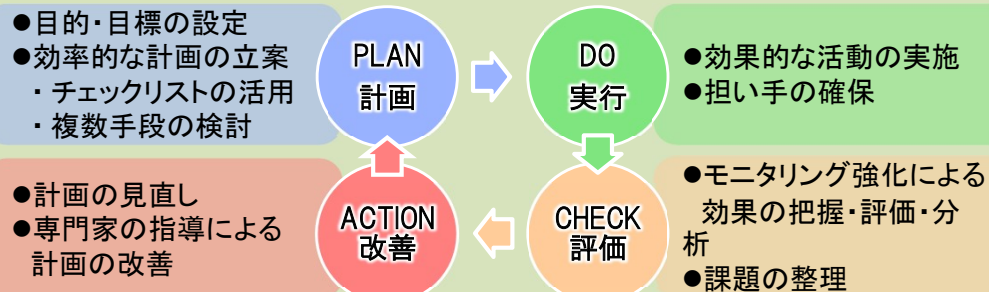
定額（1/2相当）



<事業イメージ>



【PDCAサイクルによる活動の実効性の確保】



〔お問い合わせ先〕水産庁防災漁村課（03-3501-3082）

➤ 磯焼け対策ガイドライン

磯焼けの原因と具体的な対応策をまとめたガイドラインを策定(令和3年、第3版)

漁業者等が主体となって藻場の保全・回復対策を計画・実行可能に



【ガイドラインの構成】

- ①趣旨
- ②藻場とは
- ③磯焼けとは
- ④植食動物
- ⑤磯焼けの現状
- ⑥対策の基本的考え方
- ⑦対策手法
 - ・磯焼けの感知
 - ・現状把握
 - ・対策の検討と計画
 - ・対策の実施
 - ・モニタリング
 - ・評価
- ⑧対策事例

この他、水産庁の直轄調査でとりまとめた、下記の手引きを公表

- ・広域藻場モニタリングの手引き(令和3年3月)
- ・実効性のある継続的な藻場モニタリングの手引き(令和6年4月)
- ・海水温上昇に対応した藻場保全・造成手法(暫定版)(令和6年4月)
- ・気候変動に対応した漁場整備方策に関するガイドライン(令和4年6月)
- ・藻場造成型漁港施設の整備ガイドライン(令和7年5月)

➤ 磯焼け対策ガイドライン 抜粋英訳版

我が国がもつ藻場保全技術を海外に発信することで、関心を高めることを目的に「磯焼け対策ガイドライン」の一部を英訳し公表



【ガイドラインの構成】

- ①趣旨
- ②藻場とは
- ③磯焼けとは
- ④植食動物
- ⑤磯焼けの現状
- ⑥対策の基本的考え方
- ⑦対策手法
 - ・磯焼けの感知
 - ・現状把握
 - ・対策の検討と計画
 - ・対策の実施
 - ・モニタリング
 - ・評価
- ⑧対策事例

■: 抜粋内容

英訳版表紙

➤ 水産庁HPの更新(藻場の保全・創造、磯焼け対策)



水産庁

English キッズサイト サイトマップ 文字サイズ 標準 大きく

逆引き事典から探す キーワードから探す Google 提供 検索

水産庁について 政策について 分野別情報 報道・広報 申請・お問い合わせ

ホーム > 分野別情報 > 漁港・漁場・漁村に関する情報 > 情報箱 > 藻場の保全・創造、磯焼け対策

藻場の保全・創造、磯焼け対策

藻場とは、沿岸の浅海域において海藻や海草が繁茂している場所のことをいいます。

藻場は、水産生物の産卵場所や稚稚仔魚等の生息場所、アワビ・サザエなどの海藻類を食す水産生物や海藻表面や藻体間の餌料生物を捕食する水産動物にとつての餌場となるなど、豊かな生態系を育み、漁業資源の増殖に大きな役割を果たしています。また、藻場を含む海洋生態系に貯留される炭素、いわゆるブルーカーボンが注目され、二酸化炭素の吸収源としての機能にも多くの期待が寄せられています。

一方、我が国沿岸の藻場は、様々な要因によって、海藻が衰退し、消失するいわゆる磯焼けが発生しています。そこで、この多面的な機能を有する藻場を保全・創造するため、水産庁は、藻場の保全・創造に取り組む活動組織や地方公共団体を支援するとともに、実効性のある取組となるようガイドライン等を策定・公表するほか、新たな取組や優良事例を共有する全国協議会の開催を行っております。

目次

・藻場・干潟ビジョン

・ガイドライン・手引き

・磯焼け対策ガイドライン

・Guidelines for Conservation and Restoration of Seaweed Beds

・海水温上昇に対応した藻場保全・造成手法(暫定版)

・実効性のある藻場モニタリングの手引き

・広域藻場モニタリングの手引き

・捕食者を利用した藻場回復の手引き

・磯焼け対策における施肥に関する技術資料

・磯焼け対策全国協議会

主な支援制度

・水産基盤整備事業(公共事業)

・水産多面的機能発揮対策

(参考) 漁港漁場整備長期計画

第2版 藻場・干潟ビジョン(令和5年12月)



本ビジョンは、実効性のある効率的な藻場・め、地方公共団体等が各地域の特性を織り込める策定する際の基本的な指針です。

藻場・干潟ビジョン(第2版)(本文)(PDF: 2,558KB) [人](#)

藻場・干潟ビジョン改訂について(概要)(PDF: 921KB) [人](#)

新旧対照表(PDF: 509KB) [人](#)

第3版 磯焼け対策ガイドライン(令和3年3月)



本ガイドラインは、漁業者等が自ら主体となって藻場の保全・回復を計画・実行できるようにするため、藻場の役割など基本的なことから、磯焼けとなる要因と要因ごとの対策手法、具体的な対策事例等を整理しとりまとめたものです。

【全体版】

磯焼け対策ガイドライン(PDF: 18,945KB) [人](#)

【分割版】

表紙・まえがき・はじめに・目次(PDF: 994KB) [人](#)

第1章 ガイドラインの趣旨～第2章 藻場とは(PDF: 5,892KB) [人](#)

第3章 磯焼けとは(PDF: 2,967KB) [人](#)

第4章 代表的な捕食動物(PDF: 7,561KB) [人](#)

第5章 我が国沿岸の磯焼けの現状(PDF: 7,996KB) [人](#)

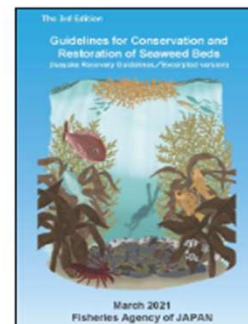
第6章 磯焼け対策の基本的な考え方と計画・設計(PDF: 2,923KB) [人](#)

第7章 磯焼け対策手法(PDF: 22,827KB) [人](#)

第8章 磯焼け対策の事例(PDF: 8,680KB) [人](#)

参考資料・引用文献・参考文献(PDF: 1,467KB) [人](#)

The 3rd Edition Guidelines for Conservation and Restoration of Seaweed Beds



These guidelines are compiled to enable to fishermen and others themselves to take the lead in planning and implementing the conservation and restoration of seaweed beds.

These guidelines offer a summary of the roles of seaweed beds, the causes of their decline, and practical countermeasures with examples.

This English version contains only selected content from the original document.

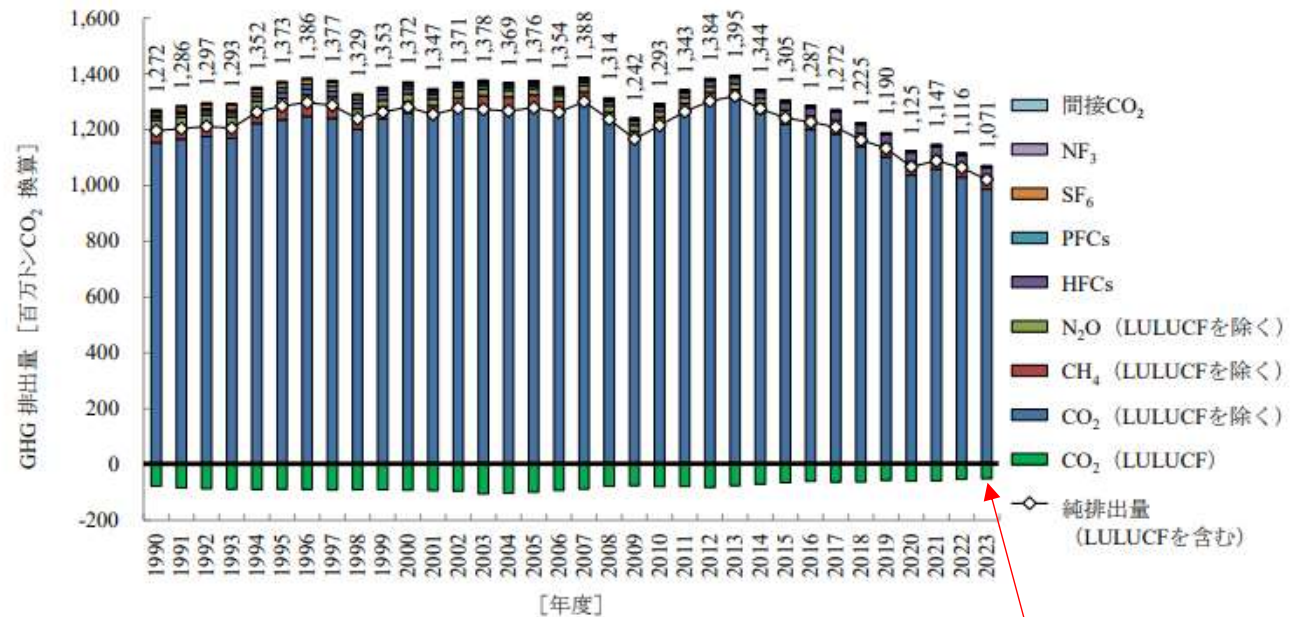
Guidelines for Conservation and Restoration of Seaweed Beds(PDF: 4,072KB) [人](#)

海草・海藻によるCO2吸収量のインベントリ反映について

- 各国は、気候変動枠組条約（UNFCCC）に基づき、自国の温室効果ガス排出・吸収目録（インベントリ）を作成し、毎年、国連（条約事務局）に提出・報告している。
- 2024年の報告書で、**世界ではじめて海草・海藻藻場の双方におけるCO2吸収量を算定し報告した。**
- 本報告にあたっては、環境省、国土交通省と連携して対応。
- 本年（2025年）の報告書では、**海草・海藻藻場におけるCO2吸収量は合計約34万トン**の値と報告※。



2025年インベントリ報告書（表紙）





我が国の温室効果ガス排出量及び吸収量の推移

吸収量の一部として、藻場による34万トンの吸収量を計上

出典：環境省HP 2025年提出 | UNFCCCへの報告及び審査_温室効果ガスインベントリ

※2023年度における海草・海藻藻場によるCO2吸収量を報告

 ご清聴ありがとうございました 



[磯焼け対策関連情報はこちら（水産庁HP） ↑](#)